

令和7年度 学校経営方針

(菊川市立小笠北小学校)

1 令和6年度の取組

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通目標)

重点目標 「自分をみがく子 ささえ合う仲間」R4・R5・R6)

学校経営目標 「明日も来たい！」と子どもも職員も思える小笠北小学校

目指す子どもの姿「自分で考え、判断し、ねばり強く取り組む子

よさを認め合い・高め合い、共に成長する仲間」

(1) 目指す子どもをめざすPDCA サイクル

子ども自身が振り返り修正する「土台ステージ」、対話で高め合う「成長ステージ」、感謝を表す「希望ステージ」で一人一人がかがやき、認め合い、安心して自己実現できる学級づくりをめざす生徒指導

(2) 居場所づくりと絆づくりで、自信と希望を高める「仲間づくり」

(3) 思考と基礎学力定着で確かな学力をつける「学びづくり」

2 児童の実態 成果と課題

(1) 多様性を認める姿をめざすことができている。

「学校が楽しい」と答える児童が、2年連続 90%を超えている。これは、①児童会を中心に、昨年度の取り組みを継続・発展させ、目指すあいさつ「北小ナンバーワンあいさつ」を決め(きめ太)、話し合い(ミルキ)、全校に良さを紹介する(アウプ)など、子ども発信のアプローチ、②外国籍児童や特別支援教育の充実など、これまでの実績のさらなる積み上げにより、一人一人が自己存在感、自己有用感を向上させることができてきた成果である。

一方で、言語別グループの固定化による閉鎖的な交友関係が、新たな課題となっている。共通言語を日本語にしつつ、意図的多文化交流や他言語を学ぶ活動を取り入れる必要がある。

(2) 目標に向かって取り組む力が向上している。

「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童が、2年連続 90%を超えている。これは、①自分やみんなの頑張りが視覚化できる「希望の木」や「ボイスシャワー」などで、個人と集団のよさを広める取り組み、②当番・係・遊び・企業地域とのコラボ活動など通して、目標に向かって、できることを考え、挑戦する達成感を得た成果である。

(3) 学校の枠を超えたつながりが主体性につながっている。

「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよくわかる」と答える児童が、2年連続 90%を超えている。これは、授業の「めもま(めあて、もんだい、まとめ)」による分かる授業の継続に加え、北っ子ソング、北っ子ダンス、フラワーパワー大作戦、JA 夢咲との食育、田子重お弁当コラボ、命の学習など、学校の枠を超えた活動を通して、「もっと関わりたい」「もっと地域のためになりたい」「〇〇さんのようになりたい」という意欲につながった成果である。また、子どもたちが考えたキーワード「きたしょう神獣(アニマルズ)」を、学校教育活動に活用し、目指す姿を具体的に共有できた。今後も引き継ぎ、地域を巻き込むプロジェクトとしてさらに進化させていきたい。

(4) 安全・安心な「思いやり環境」を更に定着する必要がある。

本番さながらの抜群の避難訓練、顔を見るとニコッと笑顔で一言、待ち時間を楽しみコミュニケーションタイムにする大らかさなど、周りを幸せ空気にする不思議な力がある。一方で、「自分にはよいところがある」と答える児童が 90%を下回った。今後は、相手を思いやる言葉遣いや行動、トイレの使い方、他の学級が授業中の時の移動、安全な休み時間の過ごし方、聴き方など、みんなが気持ちよく生活できる「思いやり環境」について、子どもたち

が考え、話し合い、良さを認め合う温かい関係づくりの中で、自己肯定感をさらに向上していきたい。

肯定的評価 当てはまる どちらかと言えば当てはまる ほぼ毎日 週3回以上
 強肯定評価 当てはまる ほぼ毎日

		項目 ★ア～ク菊川市共通項目	R5		R6			R7
			肯定	強肯定	目標値	肯定	強肯定	目標値
自己肯定感	1	★ア 学校が楽しい	93 	70.4	90	91.4 	65.7	95
	2	★イ みんなで何かをするのは楽しい	97 	80.1	90	97.5 	77.5	90
	3	自分にはよいところがある	90	66.5		86	63.9	
	4	進んであいさつしようとしている	93	68.7	90	88.9	55.7	
思いやり環境	5	相手をさんづけして呼んでいる						
	6	国籍、性別、年齢など 分け隔てなく関わっている						
	7	教室、ろうか、階段、トイレ等、落ち着いて過ごしている						
学力向上	8	★ウ 授業に主体的に取り組んでいる	94 	56.6	90	92.9 	50.8	95
	9	★エ 授業がよくわかる	91 	53.5	90	92.3 	50	
	10	★オ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている	90	55.3	80	88.1	51.4	
	11	相手の思いや考えをわかるまで聞こうとしている				91.1	51.1	
	12	自分の考えをもとに、進んで問題を解こうとしている				88.1	46.5	
	13	相手を意識して、分かりやすく伝えようとしている				75.3	35.4	80
	14	分かったことや学習の振り返りを書くことができる				87.4	55.7	80
	15	★カ 授業でコンピュータなどのICT をどの程度使っているか	95	64.8	90	76	53.5	
	15-1	①授業で iPad を使って調べ学習をした	84	42.2	90	73.6	44.6	
	15-2	②授業でパソコンや iPad を使って、友達と意見の交流をした	78	30.8	70	72.5	38.8	
	15-3	③授業でパソコンや iPad を使って、自分の考えを、まとめたり発表したりした			65	62	31.8	
連携	16	★キ 学校に、信頼することのできる先生がいる	93	76.8	90	95.6	75.4	
	17	★ク 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	89	49.7	70	88	45.4	70

3 令和7年度のめざす子供の姿

岳洋学舎学校教育目標（小笠北小学校学校目標）

「自信をもち 自分の力を発揮する子」

重点目標（めざす子どもの姿）

「**気づき** **考え** **挑戦する子**」
（きめ太 だまるん ミルキ・アアップ）

4 めざす子供の姿を実現するための学校の姿

- (1) 共に自己肯定感を高める学校

成果指標「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的評価をする児童

90%以上

- (2) 児童が主体的に学ぶ学校

成果指標「授業に主体的に取り組んでいる」と肯定的に評価する児童

95%以上

- (3) 地域とともにある学校

成果指標「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」

と肯定的評価をする児童

70%以上

5 令和7年度具体的な取り組み

- (1) 「気づき 考え 挑戦する」PDCA サイクル

よりよくなるための種に「気づき」、芽を出す方法を「考え挑戦する」1学期
成長している葉に「気づき」、花を咲かせる方法を「考え挑戦する」2学期
自分達が実らせた実「気づき」、次につなぐ方法を「考え挑戦する」3学期

- (2) 生徒指導 2本柱「自己肯定感向上」「思いやり環境」

「思いやり環境」と「危機管理の日常化」で安心・安全で楽しい学校を実現する。

「挑戦の木」とボイスシャワーで「自己肯定感の向上」をめざす。

- (3) 学びづくり

自分達のよさとよりよくなるためのめあてに気づき（きめ太）、より深くかかわるための方法を考え（だまるん）、挑戦する（ミルキ・アアップ）「学びづくり」

ア 主体的に考え深める单元構想で、自発的な対話を生む授業

「授業のめ・も・ま」と北小アニマルズ活用で分かりやすい授業をめざす。

イ 学ぶ姿勢、授業準備、温かい聴き方・反応、相手を意識した話し方、様々な考えに触れるかかわりで、将来にわたる学びの基礎をつけ学力向上をめざす。

ウ 人・地域・自然に触れて学ぶ「総合的な学習の時間」

企業とのコラボ、地域・保護者との連携で、かかわりから学ぶ。

- (4) 仲間づくり

自分達のよさとよりよくなるためのめあてに気づき（きめ太）、よりよくかかわるための方法を考え（だまるん）、挑戦する（ミルキ・アアップ）「仲間づくり」

ア 思いやり環境と危機管理の日常化

どうすれば「思いやり環境」になるのか「気づき 考え 挑戦する」

みんなが気持ちよく過ごせる環境（温かい言語環境、整理整頓、椅子をしまう、衣服を畳む、言語や文化の壁を越えたかかわりの環境等）

危機管理の日常化（10分休みの過ごし方、教室移動、廊下歩行、訓練の日常化、防犯体制、衛生管理等）

イ 児童発の活動

先輩達が残してくれたよさ「かかわり・アイディア名人」（子どもたちが前面にでる児童会・委員会・学年会・学級会・行事等、北小ナンバーワンあいさつ、北小ソング、北っ子ダンス、北小アニマルズ等）を引き継ぎ進化させ、新しい取り組み（言葉や文化の壁をこえたかかわり）に挑戦する。

- (5) 地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」